

1 学校として目指す授業

主体的・対話的な学習活動を工夫し、GIGA端末を活用しながら「分かる」「できる」授業を目指す。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、基礎・基本の定着と深い学びの実現を図る。

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・各教科の学力で国の平均を上回っており、理科では「思考・判断・表現」、数学と国語では「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点の正答率が高い。 ・ICT機器の活用については、全ての項目において国の平均を上回っており、特に「発表」に関する項目が顕著である。 ・学力が国の平均を大きく上回っているのに対し、「将来、社会に出たときに役に立つ」と思っている生徒の割合がそれほど高くない。	・学習時間が国の平均を上回っており、さらに塾に通っている生徒の割合が高い。 ・読書が好きな生徒が国の平均を6%以上上回っている。さらに、家に多くの本がある生徒が多く、200冊～500冊では国の平均を8%上回っていることから、本が身近なところにあることが分かる。 ・他の項目と比べ、自己有用感を感じている生徒の割合が低く、国の平均を下回っている。

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京都統一体力テストの学校平均と都平均を比べてみると、どの学年もほぼ平均と変わらない記録であった。1年男子以外は若干平均値を下回っている項目があった。1年女子は持久走、2年男女は50m走と反復横跳び、3年男女は反復横跳びが下回っていたので、保健体育科の授業の導入で、瞬発的な動きや素早い動作を取り入れたアップを考え、継続的に行き、力をつけていきたい。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

・学力は高いが、学習が「社会で役に立つ」と感じている生徒が少ない。 ・学習の中で、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする時間を十分確保できていない。 ・自らの学習を振り返り、次の学習に活かすことができていない生徒が多い。
--

4 学校全体の授業改善の視点

以下の力を育てることに努める。 ・将来の夢や目標と関連付けながら、自ら課題を設定し、その解決に向けて自分で考え、主体的に取り組む力を身に付けさせる。 ・多様な考え方に触れ、自分と違う意見について考える機会を更に増やす。 ・学習の振り返りを行い、次の学習に活かす機会を増やすことで、メタ認知能力を高める。
--

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。 ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。 ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。 ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。 ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>学校指導課へ提出する。</u> ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	・思考や表現の型を身に付け、自分の意見を発信するなど主体性を身に付ける。		・ICTを活用し、基礎・基本の定着をはかり、多様な課題について考え、発表する活動をとおして思考力や表現力を培う。		基礎的な学力を身につける一方で、一つの課題に対して多様な考え方で取り組ませることで思考力を育む。作図などではICTを活用し、ICTの利便性や学習効果を感得させる。		・観察・実習・実験にて、知識を確認、検証し、グループ討議等で発展的学習への方向付けを行い、定着を図る。 ・ICT等を使用した、自ら学びと向き合う習慣を身に付けさせ、思考・判断・表現力の向上につなげる。		・指導者用デジタル教科書、TeamsなどICTの活用を推進していく。		・ICTやワークシート等を活用し、実技の基礎的な知識・技能を習得する。 ・制作記録の作成を通し、思考・判断・表現の力を育む。		・授業のアップで、ランニングのスピードを少しあげ、全身を使うトレーニングを取り入れ持久力を伸ばす。		技術：課題を設定し、その課題に解決に向けて取り組むように工夫する。 家庭：学習したことを家庭で実践する場面を作り、基礎の定着を図る。		ライティングノートを活用しながら基礎を重視するとともに、スピーチ等の表現活動を通して自主的に取り組む態度を育てる。		意見の共有や話し合いなど、目的に合わせて手法や人数を変えることで、多面的・多角的に自他の道徳的価値に触れ、考えを深める態度を養う。	
2学年	・目標を理解し、ICTを活用して他者の意見に触れながら自分の考えを深める力を養う。		・課題解決的な学習を通じて、協働的な学びを推進することで、生徒の主体性や思考力を養う。		・身に付けたことを元に論理的に思考する力を身に付けさせる。ICTを活用して主体的に学ぶ態度の向上を図る。		・生徒が自らの考えを表現し多様な考え方に触れる機会を増やす。 ・振り返り活動で学びを生活や社会に広げて次の学習につなげる。		・指導者用デジタル教科書、TeamsなどICTの活用を推進していく。 ・グループ活動を通し、互いに学ぶ合う。		・映像メディア等、ICTを活用した表現に取り組むことで表現の幅を広げる。 ・題材に関連した鑑賞活動を取り入れることで、生徒の感性を涵養する。		・授業のアップで、速いペースで走ったり、短い距離のダッシュやスピードに変化をつけたダッシュをしたりするなどを取り入れる。		技術：身近な課題を見付けて、解決しようとする力を養う。 家庭：調理実習にて衛生・安全に配慮する意識を高め、家庭でも学んだことを実践する場面を設ける。		音声を中心に、基本的な内容を繰り返すことで基礎力を付け、パフォーマンステストを通して表現力を高める。		生徒が自らの考えを表現し多様な考え方に触れることを通して、物事を多面的・多角的に捉える力を身に付け、自身の課題解決に取り組む態度を養う。	
3学年	・話し合いや相互評価、振り返りを通して、他者の意見を聞き自分の考えを更に深める力を養う。必要に応じてICTを活用し、発信する力を身に付ける。		・探求学習をベースにした協働的な学びを通して、自ら課題を設定し、その解決のための思考力や判断力を高める。		・1・2年で学んだことをもとに、自力解決する能力を高める。自主的にICTを活用する力を養う。		・探究的な学習を通じて、協働的な学びを推進し、多様な考えに触れる機会を多く設ける。		・指導者用デジタル教科書、TeamsなどICTの活用を推進していく。 ・歌詞の内容や曲想に沿った表現の工夫を生徒に考えさせ、グループ活動を通して共有・吟味させることで質を高めていく。		表現方法の選択肢を広く設定することで、これまで学んできた知識や技能を生かし、自ら設定した主題に合わせて生徒自身で選択して表現できるようにする。		・授業のアップで、短い距離のダッシュやスピード・スタートの仕方に変化をつけたダッシュなどを取り入れる。		技術：問題解決に向けて取り組み、これからの社会に通用していく力をつける。 家庭：衣・食・住・消費を見直し、持続可能な社会を目指す力を身に付ける。		教科書本文や「模擬トレ」を活用し、長文読解力を高める。本文要約やリテリングの練習を積み重ね、英作文の力を伸ばす。		物語に触れつつ、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める態度を養う。	